生徒の実態

真面目に努力する生徒が 多い一方で、自ら考え行動に移す積極性の育成が 課題である

地域・社会の実態

震災復興と少子高齢化対 策に取り組んでいるが、 活性化が課題である

学校の実態

SGH事業が終了するが、 れまでの取り組みを引き 続き継続・発展させてい く計画である

学校の教育目標

四綱領「質素剛健 自重自治 これを貫くに至誠を 以てす」を基調として精神性を高め、文武両道に励 み先進的教育活動に取り組むことにより、21世紀 の日本の担い手としての志をもち、主体的に判断し 行動できる人材を育成する。

総合的な探究の時間の目標

SDGsのテーマに基づく横断的・総合的な学習 を通じて、幅広い視野から教養を深め、社会課 題と自己との関わりを見出し、自らのキャリア 形成に資する資質・能力を育成することを目指 える力、論理的な文章を書く力、自分の個性や 能力を発揮する分野に進路を切り拓く力を育成 する。

生徒の成長に寄せる願い

【保護者】

将来の目標を明確に持 ち、努力を怠らないでほ

【地域】

町の活性化にぜひ手を 貸してもらいたい 将来、国内外から地元 神戸の発展に寄与する人 材になってほしい

【教職員】

___ ・目標達成のため努力を 怠らないでほしい リーダーシップを発揮 できる人物に成長してほ しい 国の担い手となる志を 持ってほしい

目標を実現するにふさわしい探究課題と探究課題の解決を通して育成をめざす具体的な資質・能力 第1学年探究課題 第2学年探究課題 第3学年探究課題 ·SDGsに関するテーマについて、自分なりの解決 SDGsに関するテーマに沿って、新聞ワーク、ディ キャリアデザイン講座を通じて、社会における自己 策を考え、発表する スカッションに取り組み、探究活動を行う の在り方・生き方を考える ・探究活動を通じて得た知識・技能や考えをまとめ、 ・探究活動の手法について学び、活用する ·SDGsに関するリレー講座を実施し、社会課題につ 3年間の振り返りを行う テーマに沿って、社会における自己の在り方・生き -マについて、社会で自分の個性や能力をどの いての幅広い視野を獲得する 方を考える ような分野で発揮するのかを具体的に考える 知識及び技能 知識及び技能 知識及び技能 全教科・科目を通じて習得した知識をもとに、SDGsに関す 全教科・科目を通じて習得した知識を横断的・統合的に活 中学校までに得た知識をもとに、様々な分野で自己実現 を図っている先人の取り組みを通してキャリアデザインに マについて理解を深める。さらに、新聞・書籍等を活 用し、SDGsに関するテーマについて詳細に理解する。さら ついて理解を深める。その際に、MDGsからSDGsにいた 用して幅広い教養を獲得し、探究学習のプロセスを通じ 、新聞・書籍等を活用して幅広い教養を身につけ、探究 る背景や国連において全会一致合意に至った目標である ことを理解するとともに、実践事例等についても知見を得 学習のプロセスを通じて、多様性や創造性という概念的な 知識を構造化するとともに、世界が直面する課題と自己の て、社会貢献の在り方やクローバルな課題がわかり、パ・ シップという概念的な知識を構造化するとともに、社 会発展のための具体的な取組があることを理解する あり方がつながることを理解する 思考力・判断力・表現力 思考力・判断力・表現力 思考力・判断力・表現力 【問いを立てる力】SDGsに関連させて探究テーマを設定す 【問いを立てる力】探究テーマについて多面的・多角的に 【問いを立てる力】SDGsに関する知識をもとに、探究する 追究できる。また、他生徒に対して適切な質問ができる。 【答える力】複数の資料を用いながら説得力のある適切な ることができる。また、他生徒に対して適切な質問ができ マ設定をすることができる。 【答える力】講師の発言や資料を用いながら自分なりの答 【答える力】複数の資料を用いながら説得力のある適切な えを選択・判断することができる。 【書く力】課題と解決策を深く理解し、複数の資料を比較・

【書く力】与えられた条件を理解し、資料を活用しながら、 文章を書くことができる

学びに向かう力・人間性等

中学校までに得た知識をもとに教科横断的に活用し、先 人の知識や経験を積極的に取り入れ、自分なりの課題意 識をもって探究活動に進んで取り組もうとする

解決策を示すことができる。 【書く力】課題と解決策を理解し、複数の資料を比較・検討

一貫性のある文章で表現すること

検討しながら、レポート等で一貫性のある文章を書くことが

学びに向かう力・人間性等 学びに向かう力・人間性等

全教科・科目を通じて習得した知識をもとに、新聞・書籍等 で得た知見を横断的・統合的に活用することで幅広い教 養を身につけるとともに、他生徒とのグループ学習を通じ て合意形成の姿勢や意見の組み合わせによる創造性に 関心を持つことができる

全教科・科目を通じて習得した知識をもとに、新聞・書籍等 で得た知見を横断的・統合的に活用することで幅広い教 養を身につけ、自分の個性や能力を発揮する分野で研究 を発展させ、自らの社会参画により課題解決を実現するこ とに強い意欲と関心を持つことができる

学習活動 指導体制 学習の評価 指導方法 個人の探究活動とグループの協働的な学 ______ 毎時間ごとにルーブリック評価を実施し、発 3年間を通じて、研究サイクルの基本的プロ 探究推進委員会を中心に目標設定、年間

セスを学び、グループによる協働学習スキ ルと、発表を通じたプレゼンテーション能力 を習得し、資料を整理しレポートを作成する など探究活動を体系的に展開する。

習を相互に関連付けて実施して、研究サ クルを体験させるとともに、新聞等を活用し てSDGsに関連する生徒の課題意識を連続 して発展し、深化させる支援を行う。

計画、教材、評価方法を企画立案し、授業 運営は学年団を中心に行う。生徒20名につ き教員1名(最大)の指導体制をとる。

表会では生徒相互、教員、PTA等の社会人 こよるパフォ ーマンス評価を実施し、個人 の振り返りの時間を設け、学習計画の見直 しを図る。

高等学校間の連携 各教科・科目等との関連 地域や大学との連携 小学校や中学校との連携 神戸市企画調整局及び長田区(長田区と 本校主催「未来創造シンボジウム」や本校 事務局「高校生国際問題を考える日」に 全教科の学習を通じて読解力の育成を図 るとともに、英語科でSDGsに関する国連文 平成30年連携協定締結)や京都大学、大 小学校や中学校での教科・科目、特に「総 書等の英文読解したり、国語科や公民科で 阪大学(国際公共政策研究科と平成26年 合的な学習の時間」や「トライやるウィー て、他校生徒・教員と議論や交流を行う。ま 社会課題についてディベートを行ったり、数学と情報において統計やデータ処理につい た、福井大学ラウンドナーノル」でいる。 甲子園」等外部の発表会に積極的に参加 連携協定締結)、神戸大学、兵庫県立大 での学びの成果を生徒から聞き取り、本校 学、同窓会と連携してコンソーシアムを構 での学びに生かす。 て学習する。